

少し早めであるが、本日の宿泊先である欧風宿「ぶどうの樹」に向かう。夕食が進み、宴も竹縄の頃、養父氏の仲間も加わって二次会が始まった。旅の途中で出会った武田氏と養父氏ではあったが、深夜まで懇親を深めあった。(午前二時就寝)

### 【3日目】

朝、六時半過ぎに目を覚ますと、当たり一面が真っ白の銀世界であった。本日の予定は「天の岩戸神社」「くしふる神社」「天真名井」「弊立神社」の参拝である。

午前九時半に宿を出発し、天岩戸神社に向かう。養父氏とは朝食後に別れ、七人の旅である。天照大御神の天岩戸伝説を伝える天岩戸神社を参拝し、日向神話舞台になった天安河原を訪ねた。安河原からの帰りは雪が舞い、しかも下から上へ雪が舞う状態となり、より一層幻想的な感じを覚えた。次に、くしふる神社を訪ねた。この神社は天孫降臨の地といわれているものの、観光スポットとしては人気がないのか、閑散とし駐車スペースも余りなかった。

昼食は井戸ちゃんが予約してくれた

そば処「天庵」であるそば定食を注文したが、前菜、天ぷら、そば、デザートまで出てきたのには驚いた。昨日から友人となった武田さんとは昼食後お別れとなった。後刻、井戸ちゃん宛てに、この旅行メンバーの京都支部員として次回も参加したいとのメールをいただいたと聞いている。皆、大歓迎である。

さて、この旅も最後の弊立神社を訪問して終わりである。この神社は熊本にあり熊本空港へ行く道の途中にあった。

参拝するときは、午後二時ごろにも拘わらず、外気温度は零度であり、本当に寒かった。その中を、旅人六人衆は、山の中腹に聳え立つ弊立神社を目指して、151段の所どころ氷ついた石段を一つずつ注意しながらよじ登った。この神社では正式参拝して宮司の祝詞と紀元節や古事記に纏わる講話を頂戴した。

さて、向かうは終着の熊本空港である。熊本空港までの45kmの距離が長く感じる。この頃になって旅の疲れがでたのか、後部座席の作ちゃん、嵩ちゃん、由紀ちゃんがウトウトしていた。井戸ドライブバーは眠気を感じさせることなく安全な運転を続けている。

もうすぐ空港である。寒さが厳しく粉雪が散らつくこともあったが、午後四時前に無事熊本空港に到着した。今回の「天の岩戸・高千穂の旅」も波乱万丈で感動する場面の多い楽しいものであった。

### 【後書き】

東京行き熊本発のJAL便(19:15発)まで時間があり、お土産を買ったり、食事をしたりして過ごす。

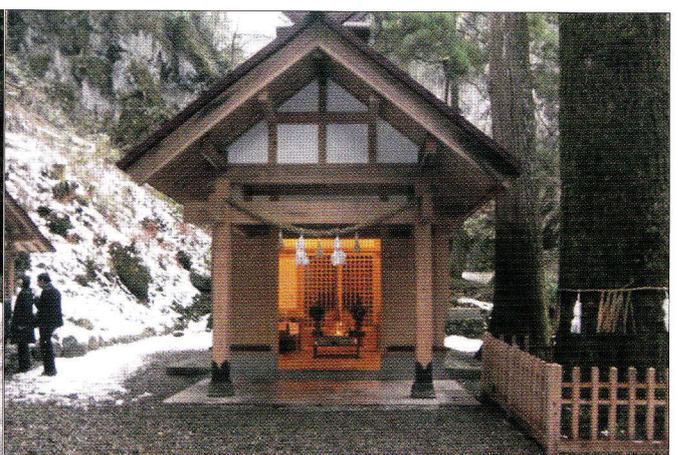
機上の人となり・到着の機内アナウンスで目を覚ますと、もうすぐ羽田空港であった。時刻は午後九時を示していた。

あつという間の二泊三日の旅であった。次回の旅はいつになるのか。感動に感謝！

文責：鈴木富雄



東京北見会の発展を祈願した六人衆



嵩ちゃんが神酒を飲みすぎた神社